

登録コード:MH189200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	老年健康生活論【22M以降】 Gerontological Nursing & Healthy Aging		
担当教員	會田 信子 他 塚田 尚子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 前期 金曜・3時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科311講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	看護専門職者に必要な老年看護学の国家試験レベルにおける加齢に伴う生活機能の変化と生活影響を説明できる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	社会で派生する多様な健康問題に対して、看護専門職者に求められる倫理的・道徳的姿勢を修得し、高齢者の健やかな生活を支える支援のあり方を説明できる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本講では、高齢者の健やかな生活を支える老年看護実践に必要な基本的態度・知識と支援のあり方を習得することを目的として進めます。 本授業は、1年次に学んだ「病理病態学Ⅰ」「人体の構造と機能」などの基礎医学系科目や、基礎看護学系科目の知識を前提とし、2年次後期の「臨床老年看護論」「老年看護方法論」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次後期の「老年看護学実習」における重要な基礎的知識となります。 ※本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 ※本授業は、担当教員の医療機関や高齢者施設での看護師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	★前期で学ぶ『老年看護学概論／金4限』と『老年健康生活論／金3限』は、学習内容の順序性を考慮しながら融合的に展開します。開講日時に注意して下さい。 第1回（4月17日/金4限）加齢変化1：外皮系，老人性皮膚そう痒症，入浴事故＜講義前小テスト1＞＜講義後小テストb1＞〔會田〕 第2回（4月24日/金3限）統計からみた世帯・介護家族と高齢者虐待＜講義後小テストb3＞〔會田〕 第3回（4月24日/金4限）加齢変化2：感覚器系：視覚・聴覚機能＜講義前小テスト2＞＜講義後小テストb2＞〔會田〕 第4回（5月08日/金3限）コミュニケーション障害：白内障，老人性難聴＜講義後小テストb4＞〔會田〕 第5回（5月08日/金4限）加齢変化3：運動器系＜講義前小テスト3＞＜講義後小テストb5＞〔會田〕 第6回（5月15日/金3限）骨粗鬆症，転倒・骨折予防＜講義後小テストb6＞〔會田〕 第7回（5月15日/金4限）加齢変化4：消化器系＜講義前小テスト4＞＜講義後小テストb7＞〔會田〕 第8回（5月22日/金3限）便秘，下痢，便失禁＜講義後小テストb8＞〔會田〕 第9回（5月22日/金4限）加齢変化5：腎・泌尿器系＜講義前小テスト5＞＜講義後小テストb9＞〔會田〕 第10回（5月29日/金3限）個別課題学習：加齢変化6：血液系・免疫系＜小テストb10＞★6/11(木)23:59まで〔會田〕 第11回（6月05日/金3限）加齢変化7：社会的機能＜講義後小テストb11＞〔會田〕 第12回（6月05日/金4限）加齢変化8：生殖器・内分泌系＜講義前小テスト6＞＜講義後小テストb12＞〔會田〕 第13回（6月26日/金3限）加齢変化9：循環器系＜講義前小テスト7＞＜講義後小テストb13＞〔會田〕 第14回（7月03日/金3限）加齢変化10：呼吸器＜講義前小テスト8＞＜講義後小テストb14＞〔會田〕 第15回（7月10日/金3限）加齢変化11：心理・精神機能＜講義前小テスト9＞＜講義後小テストb15＞ ※授業アンケートの実施〔會田〕 第16回（7月31日/金3限）期末試験：8/6(木)23:59までに自宅でeALPSにて実施		
授業の進め方	●授業は「講義」で進めます。一部の授業で「反転学習」を取り入れて、講義開始前に【講義前小テスト】を実施します。 ●講義前小テスト ・テキストの指定ページを読んで(eALPS上で提示します)、指定時間内に自宅 or 大学等で行って下さい。実施回数制限は1回のみです。 ・講義前小テストの実施時間は下記です。いずれも授業は10分遅れでスタートします。 当日の授業が3限目の場合：12:30～13:10の間に実施して下さい		

授業の進め方	当日の授業が4限目の場合：14:30～14:50の間に実施して下さい ●その他 ・指定テキストと資料、視聴覚教材を用いて進めます。 ・配付資料は事前にeALPSにアップするので、各自で印刷 or ダウンロードして下さい。 ・毎回の講義時に、①テキスト、②配付資料（eALPSにアップ）、③ネット回線に接続できる情報処理端末（スマホ、タブレット、PCなど）を持参して下さい。 ※テキスト3冊は4年次の臨地実習まで使います。テキストの内容は毎年更新されるので「最新版」を購入して下さい。毎回、その日に使うテキストをeALPSに提示するの持参して下さい。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 1) 會田信子他(編), 最新老年看護学(最新版), 日本看護協会出版会. 2) 堀内ふき他(編), ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践(最新版), メディカ出版. 3) 野尻晋一(著), リハビリテーションからみた介護技術(最新版), 中央法規. 【参考書】 各講義の中で随時、提示します。
成績評価の方法	成績評価は、1)講義前小テスト10%、2)講義後小テスト40%、3)期末試験50%の配分比による合計点で実施します。 1) 講義前小テスト（計9回） ・当日の講義でカバーするテキストのページが出題範囲です。講義開始30分前から講義開始10分後の40分の間に、講義室やリンデン等で実施して下さい。 ・出題数5問・制限時間5分です（実施回数は1回のみ）。 ・『正答と解説』はアップしません。当日の講義の中で確認をして下さい。 ・期限が過ぎた場合は、いかなる理由であっても講義前小テストは実施できません（成績に加点しません）。 2) 講義後小テスト（計15回） ・テストは、講義終了後に実施していただきます。問題数と制限時間は、その都度、eALPSに提示します。 ・講義後の小テストは、講義終了翌週の木曜日23:59までに実施して下さい。 ・小テストは、複数回の実施を認めますが、評価には平均点を採用します。 ・小テスト中、資料等の閲覧は可能です。ただし、制限時間があるのでご注意下さい。 ・実施直後は「正誤」と「得点」が表示され、「正答」は提出期限後に『正答と解説』PDFとともに公開します。 ・期限が過ぎた場合は、いかなる理由であっても講義後小テストは実施できません（成績に加点しません）。 3) 期末試験 ・小テストの問題から厳選して出題します。問題数と制限時間はeALPSに提示します。 ・複数回の実施を認めますが、評価には平均点を採用します。 ・実施直後は「正誤」と「得点」が表示されます。『正答と解説』は公開しませんので、各講義の『正答と解説』を参照して下さい。 ・期限が過ぎた場合は、いかなる理由であっても期末試験は実施できません。
成績評価の基準	成績評価の方法の合計点にもとづき、判定基準は、90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とします。
事前事後学習の内容	【事前学習】 予習してほしい内容は、各回の講義前にeALPS上でアナウンスします。 【事後学習】 授業資料と一緒に、別紙として新聞記事や学術論文等をeALPSに提示します。講義の復習とともに、社会情勢との関係や今後の課題などを検討して、より理解を深めていって下さい。幅広い学修のために関連図書を読むなど、主体的な学習を期待しています。 ※本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします：授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	●オフィスアワー 随時とします。事前にメールでアポイントをとって下さい。 會田信子研究室（中校舎3F）aida@shinshu-u.ac.jp ●出席確認 ・出席は「QRコード」と「手書き署名による出席」で確認します（欠席者の代筆等の不正行為はしないでください）。 ・事前に欠席することがわかっている場合は、メールにて、講義担当者に欠席理由を教えてください。事前に連絡できない場合は、後日でも結構です。 ●学習の補充 ・単発的な欠席の場合、いかなる欠席理由であっても、「学習の補充」は特別に課すことはしていません。欠席した時は、eALPSにアップされている配布資料とテキストで自己学習をしてください。 ・欠席が長期間に及ぶ場合は、「学生便覧」の規程に準じた手続きをとって下さい（ただし、自己都合による欠席については学習の補充の対象となりません）。 ・欠席した場合であっても、講義前小テストや講義後小テストを期限内に実施すれば成績に反映されます。